

京セラ株式会社

2017年3月期 第1四半期 決算カンファレンスコールでの主な質疑応答内容

(2016年7月28日実施)

【業績全般】

Q：2017年3月期第1四半期の実績について、期初想定よりも良かった事業、また、弱かった事業を教えてください。

A：概ね想定通りで推移したが、特にスマートフォン向けの部品は若干だが動きが鈍かったという印象。数量は問題なかったが想定以上の値下げがあり、金額ベースでは想定を若干下回った。

Q：2017年3月期第1四半期に値下げが見られたのはどの製品か。

A：スマートフォン向けのコンデンサ等。

Q：部品以外の事業は想定内か。通信機器関連事業は大きな赤字だが、これも想定内か。

A：通信機器関連事業は想定通りだった。情報機器関連事業が2016年3月期第4四半期の販売増からの反動で2017年3月期第1四半期の販売は低調だった。

Q：2017年3月期第1四半期のソーラーエネルギー事業は、利益面で厳しかったものと推測しているが、これも想定線だったのか。

A：想定内だった。

Q：ソーラーエネルギー事業については、まだ黒字の定着が出来ていない印象だが、更に事業体制を変えていくことは考えているのか。

A：どの市場に注力するかが重要。現在の売上は国内向けが8割程度を占めるが、残り2割の海外向けでは伸び代と、利幅の大きいところに注力していく。国内向けの売上構成比も、今後は現在の8割程度から比率は下がっていくと考えている。国内では住宅用に力を入れていくことを考えている。

Q：長期契約を結んでいる、値段の高い材料を購入したことによるファインセラミック応用品関連事業の利益への影響は。

A：現段階では引当金の計上が必要になることは想定しておらず、財務諸表に大きな影響は及ぼさないと考えている。長期契約価格で購入しても、今後のソーラーエネルギー事業が計画通りに進めば、引当金の計上は必要ないと判断している。

【自動車関連市場向けの取り組み】

Q：自動車関連市場向けの2017年3月期、2018年3月期の売上見通しを教えてください。また、自動車関連市場向けで通信モジュールの売上拡大を計画しているが、売上が立ち始めるタイミングを教えてください。

A：2016年3月期の自動車関連市場向けの売上は2015年3月期比で7%程度増えている。今期2017年3月期は2016年3月期比で6%程度増える見通し。来期2018年3月期は、現状の見通しでは7~8%程度伸びるものと見ている。

通信モジュールは過去から手がけているが、全ての車に搭載されるのは2018年3月期から2019年3月期頃になると思われる。一部は2018年3月期後半から寄与してくると思うが、本格的な貢献は2019年3月期からだろう。

以上